



運動会の終わった幼稚園は今、ハロウィン一色！
ハロウィンは、「サウィン祭」という秋の収穫祭が起源と言われ、死者の霊が現世の家族に会いに来ると信じられていたその昔、それといっしょに悪霊や魔女がやってきて悪さをするとおそれられる日でもありました。そこで人々は仮面で仮装し、魔物たちを追い払ったと言われていました。園でも自分用の仮面やバッグを作り、今か今かと楽しみにしている子ども達です。

また今からの季節、色とりどりの落ち葉やいろんな形のドングリ、マツボックリなどの木の実といった秋の自然は子ども達にとって宝の山。そんな秋の自然を、製作や遊びを通してより身近に感じられるようにしていきたいと思っています。

園長 竹田紀子


● 11月のみどりきっず不可日 ● ありません

● 署名・カンパのご協力への御礼申し上げます ●

私学助成署名とカンパは「広島県私学助成をすすめる会」に、
幼児教育振興法定制署名は「広島県私立幼稚園連盟」へ郵送致します。
ご協力、ありがとうございました。



● 秋・冬期の体操服着用について ●

学年便りに記載している「体操服マーク」
このマーク日は、運動遊び・園外保育など活動的なカリキュラムの日です。
秋・冬季には体操服の下に

・**長袖Tシャツ** ・**レギンス、スパッツ**
など、伸縮性のある素材の服を着用し、防寒対策を！

< 体調が万全でない場合 >

体操服代わりに

- ・**トレーナー** ・**セーター**
- ・**長ズボン**

など、動きやすい素材の服を、体調に合わせて着用下さい。

長袖Tシャツ



レギンスなど

● 命を守る、避難訓練！ ●

幼稚園で年に7回行っている避難訓練。（「園生活のしおり」p.7参照）
回数を重ねるごとに、約束事を覚えて参加できている子ども達の姿に、
幼少期からの経験の大切さを実感しています。

（小学校への避難訓練の様子はHPにて掲載）



台風や大雨など大きな自然災害が続く近年では、一人ひとりの避難意識も
かなり高まっているように感じます。

何もないうちこそ、ハザードマップで自宅周辺を確認され、ご家族で
避難場所まで「**防災さんぽ**」をするなどし、「いざ」という時に、
安心な環境で過ごせるようにしておきたいものです。

●本格的な寒さの前に確立しておきたい…『早寝・早起き・朝ごはん』●

これからは、日を追うごとに寒くなる季節。
どうしても布団から出られず、時間ギリギリ！になってしまうのは冬になるとなおさらです。
本格的な寒さになってからでは、習慣を変えるのは難しい…。
ですので今のうちに、生活のリズムを整えておきたいですね。
まずは、5分早く起きることから始めてみましょう。
決まった時間に朝日を浴びることで体内時計がリセットされ、
頭・心・身体が整い、早寝に繋がっていくとされています。



●わくわくタイム●

降園前にその日のお当番さんが、クラスみんなの前で楽しかったこと・嬉しかったことなど、自分の思いを言葉で伝え合う『わくわくタイム』。
年中・長組は4月から、年少組は9月末から取り組んでいる活動です。
「〇〇ちゃんとブロックで遊んだのが楽しかったです！」
「家族でおばあちゃんち行ったのが楽しかったです」

『自分の気持ちを相手に伝える』

この力は、幼いうちに身に付けておきたいことの一つ。
まずは、「自分の気持ちを受け止めてもらう」というプラスの感情を経験していくことで、「自己肯定感」が高まり、自分に自信が持てるようになっていきます。
また、「コミュニケーション能力の向上」をねらいとしている活動です。



●11月第3日曜は「家族の日」 今年11月19日●

2007年に制定された日本の記念日。
その前後1週間の11/12(日)～25日(土)は『家族の週間』。
子どもを家族が育てていくことや、家族を地域社会が支えることの大切さについて理解を深める期間として、制定されています。

みんなでお出掛け、ということではなく、自分達のスタイルに合った団らんのひと時を過ごしてみましょう。
テレビやスマホを見る時間を30分減らして、絵本の読み聞かせ、お風呂でバチャバチャ、布団の上でゴロゴロ遊びなどなど、
家族の絆を深める時間をもてるといいですね。



●11月は「児童虐待防止月間」●

子ども虐待防止のシンボルマーク「オレンジリボン」。



2004年栃木県。3歳と4歳の兄弟が父親の友人から何度も暴行を受けていました。
一旦は保護されたものの、適切な対応がとられなかった事で、再び暴行を受け、息も絶え絶えの状態です。
状態で橋の上から川に投げ込まれ、命を奪われる、という痛ましい事件に起源しています。

この事件から19年。
増加し続けていると言われる、子どもへの虐待や家庭内DV。
最悪の事態を避けるためにも、泣き声がよく聞こえるなど、
「虐待では？」と思われた場合や、自身が被害を受けていると感じられた場合は、相談ダイヤルへ。
園でも関係施設と連携を取りながら、何かしらのサポートが出来るよう、努めていく考えです。
職員もオレンジリボンを胸に付け、虐待撲滅に強く賛同します。

